

補足資料1

小学校区別・年齢別学齢前児童数集計表（令和6年5月1日現在）

小学校区名	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	0-5歳計	割合(%)
大網小学校	60	59	76	85	79	117	476	31.9
瑞穂小学校	50	45	40	59	66	42	302	20.3
増穂小学校	21	23	31	24	30	36	165	11.1
白里小学校	15	13	18	10	20	21	97	6.5
大網東小学校	42	37	54	38	46	46	263	17.6
増穂北小学校	13	15	20	19	31	25	123	8.2
季美の森小学校	4	8	15	10	14	14	65	4.4
合計	205	200	254	245	286	301	1491	100.0

【複式学級について】（参考）

複数の学年で編成する学級のことで、児童生徒数が少なく1つの学年だけでは学級編制ができない場合は、2学年以上を収容して学級編制を行う。

（複式学級の基準）

小学校・・・2つの学年の合計児童数が 16人以下
 （1年生を含む場合は8人以下）
 中学校・・・2つの学年の合計生徒数が 8人以下

（メリット）

- ・児童生徒の一人ひとりに目が届きやすく、きめ細かな指導がしやすい
- ・学校行事などで、児童生徒一人ひとりの個別の活動機会を設定しやすい
- ・相互の人間関係が深まりやすい
- ・異なる学年間での縦の交流が生まれやすい

（デメリット）

- ・児童生徒の一人ひとりに大人の目が行き届き過ぎることにより、子どもの依存心が強まったり疲れてしまったりする。
- ・運動会や音楽会などの集団的な学校行事で、種目等の制約が生じる。
- ・人間関係や相互の評価等が固定化されやすい。
- ・PTA活動における保護者一人当たりの負担が大きくなりやすい。
- ・授業の際は、複数の学年の内容を同時に進めるため、一方の学年が先生から直接指導を受けている間、もう一方の学年は自分で課題学習を進めるなど、教員に特別な指導技術が求められる。
- ・複数学年分、複数教科分の教材研究・指導準備を行うため、教員の負担が大きい。